

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870300662		
法人名	有限会社イノセ		
事業所名	グループホームASUKA		
所在地	茨城県土浦市神立町673番地62		
自己評価作成日	平成24年4月27日	評価結果市町村受理日	平成24年8月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokuhyou.jp/kaisoin/infomationPublic.do?JCD=0870300662&SCD=320&PCD=08
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常磐線の神立駅から近く、住宅街の一角にグループホームASUKAはあります。車椅子でも5分以内の場所に神立コミュニティーセンターやスーパーがあり、希望される入居者の方には職員が付き添い自由に利用して頂いています。職員は入居者の一人ひとりの今に寄り添うケアを大切に支援していると共に、毎日旬の野菜を取り入れ、バランスのいい食事の提供を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅周辺の住宅街の一角に位置し、コンビニやスーパーに歩いて出かけられる。目の前にはコミュニティーセンターもあり、そこで地域の活動が行われる為、利用者の方も参加している。ホーム名はアルファベッドとても斬新な印象を受けるが、当初NHKで放送された奈良県飛鳥地方のドラマのモチーフになっていた理想的な家が根拠となっているという。従って、建物は民家に近くアットホームな雰囲気を感じさせた。経営者もそこに居住しており、子供も一緒にふれあい近所の子供達も訪れる。職員は平成13年開設当初からの職員も多くいて長く従事している。職員の平均年齢は高めで入居者の重度化に伴い介護量が増えている為苦勞しているが、逆に入居者と年齢が近い分より入居者の立場に立ち、親身になってお世話している様子が伝わってきた。一方で会社としては訪問介護やデイサービスの他、高専賞も運営しておりそちらとの交流もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成22年に地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を加え、管理者と職員は共有して実践につなげるように努めている	理念に含まれる地域密着に沿ってコミュニティーセンターでの催し物に積極的に参加している。事務所など目の届く所に掲示され、申し送り時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等を通して神立コミュニティセンターや地域の行事に参加、交流するように努めている	地域活動の中心は目の前のコミュニティーセンターだが、近所のボランティアが訪れ歌や体操、ハンドベルを演奏してくれる。現在ヘルパーの養成講座や体験学習は行っていないが、受け入れの準備は出来ている。経営者のお子さんの友達がホームを訪れる。地元祭りにも参加し、山車がホームに来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて生かしていけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開き近況報告や予定などを話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1度開催。区長や民生委員から積極的な意見が出ている。先日も災害時の井戸水の提供などの提案等があり、積極的に取り入れている。ただ、家族の参加が定着せず、今後曜日の変更などを7して参加できるように取り組んでいく。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者とは日ごろから電話、運営推進会議などを通じて意見の交換をし、協力関係を築くように努めている	市職員とは電話でのやり取りのほか、生活保護担当者も定期的にホームを訪れている。緊急入所の相談も受ける事がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する社内カンファレンスを開き、マニュアルを作成し、職員共通の理解をしている。日中、玄関の施錠は行っていない	身体拘束に関して、ベッドから転落する可能性がある方に対し、家族了解の上、夜間のみ四方を囲っている。同意書も交わしている。玄関は日中は自由に出入りできる。	最初に書面にて同意を交わした後、常に、外せる状況にないか代替手段は無いかのモニタリング及び経過記録を残して頂きたい。同時にプランにもきちんと明記し反映させる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修会を開き虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	個々の必要性に合わせ活用できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	項目通りに行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時や電話などで意見を聞くように努めている。利用者の方からは日々の生活の中から要望などを聞きだすように努めている	家族へは面会時や電話で意見を聞いている他、利用者の状況報告を半年に1度お便りとして送っている。家族からは運営に関して特に意見は出ていない。	家族との交流を深め、意見を言い易い環境を整える意味で利用者の状況報告をまめに行って頂きたい。推進会議の報告も併せて送る事で、ホームでの様子や活動状況が把握しやすくなると思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務カンファレンス、ケアカンファレンスを開き意見や提案を聞く機会を設け、反映させるように努めている	職員からの意見は、高齢になる経営者の実母が現場で働いている事もあり、その実母を通じて意見を言い易く、良好な職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働く事が出来る様に職場環境を整えたり条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修会などに参加出来る様に進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通じてサービスの質の向上させるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との聞き取りに時間をかけ、安心を確保する為の関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で困っている事や不安なこと等を伺いながらホームで出来る支援について説明し、要望などに聞き出し、より良い関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から本人の要望を聞き取り、定期的にサービス担当者会議を開き、本人にとって必要とするより良い支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望される方にはホームの庭で野菜を作って頂いたり、庭のかたづけを職員と共にして頂いている 食事は利用者と同じものをおしゃべりをしながら頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と連絡を密に取り、要望をお聴きしたり、協力依頼をしたりしながら共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方が面会に来られたり、外出をされる事を支援し、希望される方には自由に電話を掛けて頂いて関係の継続に努めている	電話や葉書等で関係継続の支援を行っている。近隣の親族に会いに行きたいとの要望に対し、家族に連絡し、支援をした。近所の墓地へ職員と墓参りに出かける事もある。今後、写真や手作りの物を添えて手紙を送る取り組みも検討していく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、何か問題が起きた時は職員が仲介に入り、より良い解決をするように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了した後も家族の方が気軽に立ち寄られる事がある 必要に応じて相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議を開き、暮らしの希望、意向の把握に努めている 意思の疎通が難しい利用者には時間をかけコミュニケーションをとりながら本人本位に支援している	墓参りや親族に会いに行く等、本人の思いに出来るだけ応えている。思いを伝えられない方については、普段接している中から推察し、対応するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の聞き取りを十分に行い、職員がアセスメントの閲覧をいつでも出来る様にしてある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日常生活を観察して記録に残し、心身状態、有する力等の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録、カンファレンス等も参考に本人、家族の聞き取りを行いながら現状に即した介護計画を作成するように努めている	ケース記録は時系列で記入され、特に重要な事柄は赤で記入。計画書は本人の意向を伝えられない方でも推察し、本人本位のプランとして仕上がっている。同意も本人または家族に説明を行っていた。モニタリングも定期的に行われていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、カンファレンス等の記録を残し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を優先し、出来るだけ柔軟な支援をするように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神立コミュニティーセンターやスーパーが車椅子でも5分くらいの所にあり、本人が希望されれば買い物、図書室利用、行事等に参加出来る様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を大切にしている 馴染みの医師の診察も受けられるように支援している	かかりつけ医は家族受診もしくは職員付き添い対応があり、受診報告や結果はその都度報告し、記録に残していた。24時間体制の協力医との連携も整っており、緊急時の対応も出来ていた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが介護職員同士情報交換を行い利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院関係者や家族との情報交換や相談に応じ、安心して治療して早期に退院できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては日頃、本人との話の中から汲み取り記録に残している 長期入院については其の都度本人、家族と話し合い、事業所で出来る事を十分に説明し、本人にとってより良い支援をしている	重度化した場合はその都度家族とまめに連絡を取り、話し合いの上決定している。看取りをした例は無く、最終的には病院に搬送される。内容については、記録に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習や社内研修を行い、急変や事故発生に備えたマニュアルを用意している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を定期的に行い 避難場所を確認し、マニュアルを作って全職員が避難できる方法を身に付ける様にしている	災害訓練は年に2～3回施設のみで実施していたが、推進会議の意見で消防署の立会いの訓練を実施するようになった。夜間想定も計画中。備蓄については十分な量を確保している。今後火災想定時の避難経路についての確認や様々なケースを想定し実施する予定。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をして利用者のあるがままを受け入れるように努めている	個人情報書類は全て事務所で厳重に保管。面会簿はノート形式だが、今後一枚綴り化を検討。写真の掲載については同意を交わしている。オムツ関係も見えない所に配置されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の悪い利用者には筆談で対応したり、意思の疎通が難しい利用者には時間をかけてコミュニケーションをとり思いを汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに添って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寒暖、其の方らしさを考慮しながら身に着けるものは出来るだけ本人に選んでいただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは本人の希望や体力を考慮して行っている。メニューを作るときに利用者の希望を出来る限り取り入れるようにしている	献立は要望に応じバランスよく作っている。近所から頂いた野菜や季節の食材を取り入れている。食器や箸等は本人の使い慣れた物を使用。下膳は出来る人にしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた調理方法、摂取カロリー、栄養バランス、一日の摂取水分量に配慮して支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じた口腔ケアを行っている 特に夕食後は念入りに歯磨き、入れ歯の手入れ、消毒を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の生活の中から利用者の排泄パターンを把握し、声かけをマメに行い、トイレに誘導し、自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、車いすの方も日中トイレを使用している。可能な人には出来るだけオムツを使用せず、布パンツで対応するよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者一人ひとりに毎日排便の記録をつけ、常に野菜や水分が多く取れるように取り組んでいる 食事の中に出来るだけヨーグルトを使うように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ入居者の希望を聞きながら、健康状態、安全面にも配慮し、個々に浴入浴支援をしている	入浴は週3回実施。出来るだけ本人の希望に合わせて行っている。車いすの方でも二人掛かりで浴槽に入っている。体に良いとされる入浴剤をいくつか使用している他、菖蒲湯やゆず湯など季節を感じさせる取り組みをしていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の中で昼寝が必要と思われる方には声かけをして居室に戻り昼寝をして頂いている 昼夜逆転しない様に気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合った服薬介助を行っている 症状に変化があった時は速やかに主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の力を生かして役割や楽しみを見つけ出し、個々の張り合いのある日々を過ごせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、健康状態に配慮しながら出来る限り買い物、散歩、神立コミュニティーセンターなどへ出かけられるように支援している	以前は入居者の身体機能も高く、石岡の祭りや日光、スパリゾートハワイアンズ(旧:常磐ハワイアンセンター)に出かけていたが、最近身体機能低下に伴い、近所のスーパーや周辺を散歩するにとどまっている。家族の協力の元、外食に出かける事もあり、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談しながら、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には自由に電話を掛けていただいている 掛ける事ができない方には職員が見つないで差し上げている 手紙、ハガキも希望されるとやり取りが出来る様に常に用意してある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の飾りや玄関の花は季節感のあるものにしていく 希望される方にはホームの庭で野菜や花をつくって頂いている	とても風通しがよく、木彫で落ち着いた雰囲気を感じさせる。リビングからは“家の庭”が眺められた。臭気に対しても気を配っており、定期的にじゅうたんを洗ったり、消臭スプレーを使用していた。ちょうど訪問時、アジサイの花が飾られ、季節感を感じさせた。職員と共同で作ったちぎり絵の作品などが飾られていた。また寛げるようソファも設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで気のあった利用者同士おしゃべりをしたり、体操をしたり、歌を歌えるような支援をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたテーブル、小物入れ、写真など自由に置いて頂き、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と写っている写真や趣味の物が置かれ、本人が紙で手作りの箱等を作り置かれていた。部屋は畳の和室と洋室と分けられ、本人の希望と状態に合わせて配室している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの希望や力量に応じて野菜、花作り、犬、猫の世話、カーテンの開け閉め等安全に出来る様に工夫している		

目標達成計画

作成日 :平成24年8月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	ベットから転落する可能性がある利用者の方に関して 家族に説明して同意書を頂いてから壁側を除いて柵をしているが 代替手段は無いかのモニタリング及び経過記録を残さなければいけない	最初に書面にて同意書を交わしているが常に、柵を外せる状況にないか代替手段がないかのモニタリング、及び経過記録を残し、同時にプランにもきちんと明記し反映させていく事	今まで通り、同意書を交わすと共にケアプランに明記し、経過についてはケース記録に詳しく記録し 定期的にモニタリングも行う事とする	3ヶ月
2	10	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているについて 半年に1度状況報告としてお手紙を送っているが家族から運営に関して意見は出ていない	家族との交流を深め、意見を言い易い環境を整える意味で利用者の状況報告をまめに行う	グループホーム便り、運営推進会議の報告書、近況報告を2ヶ月に1回出すと共に運営推進会議に出席していただける様にお誘いをする	2ヶ月
3	36	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー損ねない対応をしているについて	プライバシーを損ねない為に面会簿の改善をする事	今、グループホームASUKAの面会簿はノート形式だが、今後一枚ずつの面会簿に改善する	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。